ホワイエ Foyer

New Union of Architects & Engineers

Tokyo 655 2026.11







2026 年 11 月 1 日（毎月発行）定価 200 円 655 号通巻第 655 号第 56 巻第 11 号発行/新建築家技術者集団東京支部
発行人／杉山昇　〒162-080 東京都新宿区山吹町 361 番地　誠志堂ビル 3 階 tel.03-3260-9810 fax.03-3260-9811
ホームページ　https://nu-ae.com/tokyo/　　E-mail　shinken-tokyo@group.email.ne.jp

ホワイエ 655 目次

03 台湾紀行 1999 集集地震と 921 地震教育園区 千代崎一夫
04 建まちセミナーin 埼玉「大宮のまちあるき」 田中 光
05 建まちセミナーin 埼玉「草加のまちあるき」 武市 望奈代
06 象地域設計 50 周年イベント報告 長谷川 陽
08 能登半島地震視察報告 乾 康代
10 〃 丸谷博男
11 〃 江國智洋
12 能登半島の地震と水害の現状と私の役割 千代崎一夫
13 鋸屋根に魅せられて 吉田敬子
15 アジアンニュース No.46 TN
18 第七回東京支部サロン「みんなの知恵袋」案内 企画部
19 「ジョンレノン・ビートルズナイト」案内 山下千佳

今月の表紙　提供：山下千佳

10/310 輪島から珠洲方面へ
能登半島地震で隆起した海岸部分を活用して整備された国道 249 号千枚田工区（輪島市野田町～名舟町）に道路が新設されていました。地震や豪雨による斜面崩壊などへの対策も行なわれています。

能登半島地震・豪雨の視察は復興支援会議の取組みです。東京支部の会員の報告を中心に掲載しました。

Event Information

◎は新建主催行事　◆は会員及び交流団体の行事

東京支部

◎11/12 木　16:00　東京問題研究会　@新建事務所
◎11/16 月　18:30　第 6 回　東京支部常任幹事会　@新建事務所
◎11/29 日　14:00　第七回「新建・みんなの知恵袋」　@新建事務所

全国

◎11/05 木　東松島市あおい地区　自治会長の小野さん講演　一木会+復興支援会議

会員及び交流団体　詳細は（　）に記載された会員へお問い合わせください。

◆11/07 土　10:00-16:30 週末防災ひろば　SETAGAYA BOSAI PARK　@世田谷区役所（井上）
◆11/22 日　10:00-12:00 あしたハウスの FEC くらし塾　第 1 回「断熱の基礎知識」@町田市（丸谷）
◆12/05 土　10:00-12:30 第 62 回マンション維持管理　講座・相談会@ワイム貸会議室神田（佐伯）
◆12/08 火　18:00-20:30 ジョンレノン・ビートルズナイト　@板橋区立グリーンホール（千代崎）
◆12/24 木　19:00-21:00 春夏秋冬のある暮らし「熱を蓄える自然のバッテリー」@代官山「無垢里」（金田）

◎11/29 日　14:00-17:00　第七回「新建・みんなの知恵袋」　@新建事務所

「10 月 13 日～18 日　韓国の旅」 報告
今、韓国が熱い！　世界遺産「書院（ソウォン）」建築の思想と表現！
そして、空間的哲学が光る安藤忠雄、アルバロ・シザの四次元空間！
話し手：丸谷博男　　会費：2.000 円（新建会員：1.000 円）
場所　：新建事務所　（オンラインはありません。）
参加お申し込みはメールで新建東京支部事務所 shinken-tokyo@group.email.ne.jp まで
ホームページもご覧ください　https://nu-ae.com/tokyo/261129kankoku/



各地でのイベントや行事情報、ホワイエの原稿も随時募集しています。
下記アドレスまで原稿をお寄せください！
foyer@shinken-tokyo.orgp.emai.ne.jp

台湾９２１集集地震の教訓の記録と「台湾国立自然科学博物館９２１地震教育園区」

2026.9.12-15 台湾旅行　　千代崎一夫

２７年前、１９９９年９月２１日未明１時４７分に台湾中部にマグニチュード７．３。阪神淡路大地震より強かった揺れによる被害をどのように記録して後世に伝えようとしてかを知りたくて「国立自然科学博物館台湾９２１地震教育園区分室」に行ってきました。この施設は台中市近郊の霧峰区にあります。国土の割には高い山「玉山」（3952m）があるくらいです。

１００年来の巨大な集集地震で特に大きな被害を受けたインフラや象徴的な場所が、ここ以外にも当時の記憶と教訓を残すため施設として現在も整備されています。

以下は資料から参照で紹介します。2000 年のときは「3，九九峰」以外は行きました。

1．石岡ダム（石岡水壩・921 地震紀念公園）

車籠埔断層）の真上に位置していたため、地震によって右岸側が約 2.2 メートル、左岸側が約 9.8 メートルも一瞬にして隆起し、ダムの堤体や複数の水門ゲートが完全に破壊されました。これによって激しくねじれ、崩壊した左岸（北岸）側の数スパンの構造体はそのままの状態で保存されているそうです。

２０００年の視察のときにこれを見て、ダムは構築物では一番丈夫に造られているはずで、断層が動いたときにはダムが壊れるのなら「原子力発電所」も本当に危険だと感じています。

2．車籠埔断層保存園区（南投県竹山鎮）

国立自然科学博物館が運営するもう一つの施設です。

地震を引き起こした「車籠埔断層」の地層の２m近くの隆起断面を、そのまま屋内の展示館に露出させて保存しているようです。

3．九九峰森林歩道・地震観測站（南投県草屯鎮）

激しい揺れによって山の木々や表土が一瞬にして崩れ落ち、禿げ山（九九峰）となったエリアです。「大自然による震災の遺構」、国の自然保留区（保護区）に指定されています。

４．武昌宮（南投県集集）

震災により、2 階・3 階部分が、1 階を押しつぶすし垂直に崩れ落ちた大型寺院です。その倒壊した旧本殿が補強され、現在もそのまま保存されているそうです。







2026 建築とまちづくりセミナーin 埼玉　　エクスカーション（まち歩き）
大宮まちあるき　ターミナル駅と大正の面影のこる大宮

コースＢ：大宮駅東口→氷川神社参道→大宮公園→盆栽村　　象地域設計　田中 光

まち歩きコースＢは大宮を歩きました。なぜか私の父も飛び入り参加して７人で、てくてく４時間歩きとおしました。

大宮駅コンコースのまめのきをスタートし、氷川参道・氷川神社を通り、設計：前川國男の埼玉県立歴史と民俗の博物館“れきみん”でひとやすみ。盆栽村を抜け、土呂駅でゴールと、しぶ～い玄人好みのコースでした。

駅のコンコースから密度の高い路地を抜け、氷川参道へ。振り返るとさいたま新都心まで続く参道が、雑踏の中の緑地になっているのが分かります。

参拝もそこそこに大宮公園へ。“公園の父”本多静六が改良計画に関わったとのこと。競輪場、野球場、オリンピックもやったスタジアムがひしめき合っています。現在それらの再編計画が立ち上がり、大宮第二公園に競輪場を移転するとかしないとか。反発も起きていてどうなることやらわかりません。

ここまでほぼノンストップできましたが、“れきみん”に到着。この時点で結構へとへと。大宮公園駅からくると地味だと言われるそうですが、公園側からのアプローチがベスト。森林の中にあるボリューム感と折れて入るアプローチ、たっぷりとしたホールで森林の続きのようです。

一息ついてまだ歩く。盆栽村は、かつて関東大震災で焼け出された盆栽職人たちが集団で越してきたところです。今は数軒になりましたが、百軒以上が軒を連ねていただけあって、住宅街とはまた違う静謐な雰囲気がありました。撮影禁止ですが、すさまじい表情を持つ盆栽の数々は一見の価値ありです。

学生時代を東北で過ごした私にとって、大宮駅は新幹線の乗り換えターミナルで、まちへ出たことはありませんでした。流動的なターミナルと根強く継承されている文化が共存するまちでした。参道と神社、大宮公園が緩衝エリアとなって、都市に穏やかな空間をのこしています。













まち歩き　Ｃコース：旧日光街道草加宿リノベーションまちづくりコース

新建東京支部　武市　望奈代



私はリノベーションという言葉に惹かれ、草加のまち歩きに参加しました。参加者は１８名と４コースの中で最多となりました。ガイドをしていただいたのは、草加市役所職員の髙橋さんと松本さん。

２チームに分かれてまわりました。主に草加駅周辺のリノベーションスクールをとおして出来たお店や空間を紹介していただきました。



１つ目は、たい焼き屋さんとチョコレート屋さんと屋外フリースペース（「SOSO　PARK」）。たい焼き屋さんは地元の方で列が出来ていて、参加者はチョコを購入していました。ベンチで一休憩できる手作り感満載のスペースは、イベント等にも活用されているそうです。



２つ目は、「キッチンスタジオ　アオイエ」。名前のとおり外壁が青く塗られた建物は、昔ながらの賃貸アパートの見た目そのままです。中を覗くとキッチンと大きなダイニングテーブルがありました。料理教室やイベントを開催したり、料理ができるレンタルスペースとして活用されているようです。



３つ目は、「蔵カフェ　中屋」。築１５０年の蔵をリノベーションされたレストランの中は落ち着いた雰囲気で照明が素敵でした。ぜひデザートでも食べていきたかったなぁ。

その後も、お寿司屋さんやカフェ、洋食屋さん、新築をリノベーションしたパン屋さんなど... どんどんと見てまわりました。カフェ「ecoma coffee」ではこだわりのコーヒーをみんなで嗜み、洋食屋さん「アターブル」では開店前でしたが中を見せていただきました。都内のホテルで２０年以上修行されたシェフによる本格的なお料理が、私にも届くお値段で楽しめるそうです。こちらも必見です。

途中で金運上昇と噂の松がある神社を教えてもらったり、老舗の草加せんべい屋さんでお買い物したりと寄り道もしながら楽しみました。



最後に、ミノリテラス草加を見学しました。東部鉄道の従業員用住宅をリノベーションした複合施設であり、賃貸住宅と店舗も併設されています。店舗は飲食店もあるなかで特に気になったのは「草加文化室」シェア工房です。木工道具やミシン等を借りることができます。自前のミシンを持つことも減っているなかで、休日にはミシンを借りに近くの方々がやって来るそうです。さらにレーザー加工機やシルクスクリーン露光機など普段では扱わないような機器まで置いてありました。
広いお庭にはデッキや畑、築山までもあり、畑でとれたトマトでビールを作って販売もしていました。東京に近いまちですが、子どもも大人ものびのびと暮らせそうです。

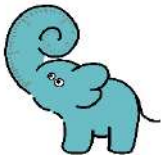
まち歩きの間中、案内役の髙橋さんはまちの様々な方と知り合いであるようで、会った人とあいさつを交わしていました。このまちの方達と共に、草加のために尽力してきたのだとひしひしと感じました。

象地域設計　５０周年イベントを開催　　2026/10/26

株式会社　象地域設計　長谷川陽

象地域設計では、さる 10 月 26 日に足立区勤労福祉会館（プルミエ）にて５０周年イベントを行い、１０３名が来場しました。

メインの１部・２部以外にも象の取り組みを紹介した３８枚のパネルや５０年の中で　社会課題に沿って業務がどのように変化してきたかを示したパネルの展示、小象亭（休憩スペース））、子どもコーナー、「象に期待すること」を書いてもらうコーナーなども設けました。



第１部　深ぼりトーク

「自由になった人を撮る。そして書く。」

山本草介さん（映像作家、著作家）

講演の中で山本さんは、初期の映画制作での失敗体験に触れ、被写体に自分の指示や先入観を押し付けるのではなく、相手のありのままの魅力や主体性に寄り添う撮影手法へと大きく転換した経緯を明かしました。この転換が、ギャラクシー賞を受賞した『酒と涙と女たちの歌 塙山キャバレー物語』など、人々のありのままの生き様を鮮明に捉えた代表作につながったと説明しました。

また、自身が高校生から大学生の途中までの青年期を過ごしたコーポラティブ住宅「あるじゅ」や、多様な人々が出入りする家庭環境で育った経験に言及。「ベランダに仕切りがない構造で育まれた濃密な人間関係や、人と人との不意なすれ違いの記憶が、現在の自身の作品づくりの原点になっている」と語りました。



山本草介さん

さらに山本さんは、現在取材を進めている「不登校の子どもたちが通う中学校」を題材とした新作ドキュメンタリー映画（来年６月完成予定）についても紹介。子どもたちの選択や存在を丸ごと受け止める「全肯定」の姿勢や場所の重要性を強調し、希薄化する現代社会における新たな居場所や人間関係のあり方を問いかけました。

最後に、映像や執筆活動を通して今後も人と人との泥くさいつながりや、個々が自分らしく生きる瞬間を描き続けていきたいと意欲を示し、講演を締めくくりました。

「健康で文化的な最低限度の生活とは。」

大江　京子さん（弁護士　東京東部法律事務所）

講演では、まず憲法 25 条の本来あるべき姿と現状に触れました。

憲法 25 条の「健康で文化的な生活」には単に生物として生存を維持するに留まらず、通常の文明の恩沢を享受し、読書や社交、修養などを通じて人間的人格価値を高められる

生活を保障する意図が込められ、元々のＧＨＱ草案にはなかったものが当時の社会党議員の国会議論の中で盛り込まれた事はあまり知られていないと紹介。25 条は憲法 13 条の「個人の尊厳」や「幸福追求権」を具体的な生活場面で体現したものであり、生存権は国民が真の意味で主権者として民主制を支えるための不可欠な基盤であると説明しました。

一方で、近年の社会保障政策については「自助」や「自己責任」が強調され、制度の縮小が進んでいると指摘。日本の社会保障支出は先進国で最低水準にあり、生活保護や年金の引き下げにより多くの人々が困窮に追い込まれていると訴えました。


大江京子さん

その上で、能登半島地震などの経験を踏まえ、住まいや住環境こそが個人の尊厳を守る要であるとし、住み続ける権利の保障や人権を最優先にした地域づくりの重要性を強調しました。

最後に、富裕層を優遇し街を金儲けの道具とする都市開発やタワーマンション建設を批判し、家族が安心して居住できることを基本的人権と捉え、地域や人々のために働く専門家や市民の営みこそが、憲法 25 条の理念を実現する道であると締めくくりました。

第２部　50 周年のつどい

２部は参加者同士気軽に交流してもらいたいと敢えてレセプションとはしないで自由参加の「つどい」にしました。

代表挨拶の後、乾杯のご発声を新建築家技術者集団代表幹事の中島明子さんにお願いしてしばし歓談。歓談の中で下記の皆さまに一言をいただきました。

１．マンション維持管理支援・専門家ネットワーク事務局長　祢宜　秀之さん
２．新建築家技術者集団全国幹事会議長　片井　克美さん
３．社会福祉法人かがやけ福祉会理事長　長田　うめ子さん
４．東部合同社労士事務所所長　和泉　尚美さん
５．社会福祉法人新川中原保育会理事　布川　順子さん
６．東京東部法律事務所所長　高木　一昌さん



最後に 50 周年を映像で振り返り、所員紹介、締めの挨拶で終えました。

新建からもたくさんの方にご来場、励ましをいただきありがとうございました。

新建災害復興支援会議　能登地震・豪雨被災地視察

2026 年 10 月 30 日（金）～31 日（土）
【参加（11 名）】
杉山真（石川）・片井克美（福岡）・久守一敏（京都）・乾康代（茨城）・新井隆夫（群馬）
丸谷博男・杉山昇・千代崎一夫・江國智洋・柳澤泰博・山下千佳（東京）
29 日の夕食交流会は丸谷耕太さんと上田実和さん（石川支部/杉山真さん事務所員）も参加

災害復興支援会議　　能登半島を視察

乾　康代

能登半島は，大部分が山地の，海に長く突き出た半島で，過疎と高齢化が進行している。その能登に 2024 年 1 月，能登半島地震，続いて 9 月，能登半島豪雨が発生した。地震で大きな被害を受け，豪雨で被害が重なり拡大した。住宅被害は 11 万棟，うち 6,178 棟が全壊した（**表 1**）。各地で山腹崩壊，地滑り，道路が崩壊し，一時 100 以上の集落が孤立した。

表 1　能登半島地震と能登半島豪雨の被害

		能登半島地震	能登半島豪雨	合計
死者		496	16	512
住宅被害（棟）	全壊	6,083	95	6,178
	半壊	18,369	529	18,898
道路，河川，港湾など（ヶ所）		1,151	213	1,364

出典：死者，住宅被害は石川県デジタル推進監室（2025年3月）
道路等インフラ被害は石川県，能登復旧・復興進捗ポータルサイト

新建災害復興支援会議は，①先遣隊が現地の状況把握，②被災地と近県支部でブロック会議開催，③被災地や近県地域での「建築とまちづくりセミナー」に取り組んできた。能登半島の被災地視察は，2024 年に 2 回，2025 年に 1 回，今回，石川支部の杉山真さんの情報を元に復興支援会議事務局で視察計画を立てた。10 月 29 日夕方，金沢に集合，30 日と 31 日の 2 日間，11 人が車 3 台で半島を回った（**図 1**）。



図 1　能登半島の主な視察先

主な視察テーマは，液状化被災地の現状，応急仮設住宅の現状，奥能登の復興・地域づくりである。

砂地の上につくられた内灘町の住宅地は液状化し，住宅が沈下，傾斜，道路は波打った。2 年半ぶりの内灘は更地が目立った。少なからぬ住民が転出したようだった。

応急仮設住宅の主流は鋼板製プレハブ。温熱，結露など居住環境の改善はなお残されていた。他方，東日本の仮設住宅では限定的だった，アスファルト舗装と玄関前のスロープは実現していた。集会所が見当たらず気になった。集会所でテレビを一緒に見ているだけでも意味があるという丸谷さんの意見に頷いた。

寺社，文化財，民家の修復，再生はどうか。聖光寺では，傾いた山門を修復する，土佐の曳き大工岡本直也さんが曳屋の手法を語ってくれた。国指定重要文化財の上時国家は倒壊，下時国家も重大な被害を受けた。工事中だったが，上時国家では，巨額の費用が立ちはだかり，地震から３年になろうとしているが，茅葺き大屋根が，大量の古文書を擁して地面に伏したままだった。

和倉温泉の老舗旅館・加賀屋は高層 RC 造はじめ４棟。公費解体が始まっていた。速やかな建物解体は復旧・復興の重要策だが，加賀屋の公費解体に比べて，国重要文化財の修復支援の不十分さはあまりに対比的だった。

「皆の宿」は，公費解体から大転換，住民と専門家の手で再生した例である。２度の被災で所有者が公費解体を予定した民家だが，住民が七浦（しつら）地区再生会議を立ち上げて購入，宿泊施設として再生した（**図２**）。集落再生支援をしてきた杉山真さんが改修設計をした。再生会議の方に話を聞き宿泊した。



図２　宿泊施設として再生した「皆の宿」

「ケロンの小さな村」は，上乗秀雄さんが，耕作放棄地を取得，開拓し，2009 年にオープンした自然体験施設だが，地震で施設が壊れた。若き２代目が祖父上乗さんと修繕し，2024 年春に再開した。石窯焼きピザで昼食をとり，施設を見て回った。

奥能登を巡り，大規模復興事業と住民の取り組みを視察した。地域生活に希望をもたらす支援が重要だが，訪れて知り学ぶ支援も必要だと学んだ。







全国ホームページに報告掲載　https://nu-ae.com/261030-31notoshisatu/

能登半島地震現地視察 2026.10.30~31　　丸谷博男

■ 二度の災害を越え“もとやスーパー”が描く復興のかたち、泊まれるスーパー「MOTOYA Base」も運営！







町野で暮らしを支えてきた地域密着のスーパー、地震は自力で何とかできた、でも水害は無理だった
70 日で再開した「奇跡のような店」、被災過疎地に「防災×観光」をと頑張りました。

石川県輪島市町野町（まちのまち）。奥能登の山あいにあるこの町で、長年、暮らしの土台を支えてきたのが、1961（昭和 36）年創業の「もとやスーパー」です。地元の人にとっては、食料品や日用品を買う場所であると同時に、「行けば誰かに会える」「町の様子が自然とわかる」──そんな拠り所として、世代を超えて親しまれてきました。

その「もとやスーパー」を、2024 年、二つの大きな災害が襲います。元日に発生した最大震度 6 強の能登半島地震。そして、9 月 21 日の奥能登豪雨です。なかでも豪雨の被害は深刻で、店内には 2 メートルを超える泥水が流れ込み、商品や設備、車、そして生活の基盤そのものが押し流されました。

それでも、社長の本谷一知（もとや・かずとも）さんは歩みを止めませんでした。全国から集まったボランティアや協力者の力を借りながら、懸命な復旧作業を重ね、わずか 70 日で営業を再開。さらに本谷さんは、町野の復興、そして能登の復興に必要な次の一手として、「泊まれるスーパー」という新たな構想を掲げ、クラウドファンディングに挑戦、そして、一段落。ちょうど、宿舎を解体しているところでした。

私が支援したのは、トップライトからの強い陽射しを防ぎ、壁周りの断熱効果をあげる遮熱シートの提供でした。とても丁寧に施工してありました。感激しました。

■ 石川県七尾市の一本杉通りにある老舗和菓子店「御菓子処　花月（かげつ）」



女将は、通　文子（とおり　ふみこ）さんです。

- 創業: 明治 29 年（1896 年）創業で、一本杉通りで最も古い歴史を持つ和菓子店の一つです。
- 特徴: 天皇皇后両陛下に和菓子を献上した実績があり、名物女将のおもてなしや、お抹茶と季節の上生菓子が楽しめることで知られています。
- 能登半島地震での活動: 2024 年の能登半島地震後、いち早く店を再開させ、被災者に温かい和菓子や支援を届けたことでも広く知られています。

昨年、ご主人を亡くして後も、十人の店員を抱えて頑張っていらっしゃいます。
久し振りの再会でした。

能登復興支援のサポート記　～七浦･皆の宿～　　**象地域設計・江國 智洋**

今回の能登行きの一番の目的は、石川支部･杉山さんから連絡があり、完成した「皆の宿」を見に行くことでした。皆の宿は、１年半前に新建で七浦を訪問した時には、水害被害を受け床上浸水し、土台や根太が表しになっていた建物でした。地元の人たちが、七浦再生会議を立ち上げ、復興活動をしていく中での目玉となる再生事業のようでした。

震災前から、戸建て住宅として住んでいた方が亡くなり空き家になっており、被害を受けたため取り壊すことも考えられたようですが、七浦再生会議のメンバーが所有者でもあり、何かの活用策を考えることになりました。七浦で復旧･復興工事が始まっても工事の職人さんが泊まる場所がないとのことで、最終的に安価で泊まれる民宿のカタチで再生されました。元々、民宿を営んでいた時期もあったようで、和室４部屋と洋室１部屋の宿として再生されました。

その改修設計は杉山さんが担い、昨年 12 月から工事をスタートさせ５月に竣工させることができました。コスト削減のためにも、建具などは、他で解体される建具をもらってきてはめ込み、寸法はほぼぴったり合い、違和感なく使われていました。また畳もテーブルも、地域の人たちが持ち寄り、支えてくれた多くの人々の思いが詰まった場所として再生されました。改修費用の工面は所有者が約８割、残りを再生会議で資金集めを行い、何とか実現にこぎ着けましたようでした。

今回、新建の復興支援会議から 11 名が泊まったので、１棟貸し切りの状態にしてもらいました。立地的に輪島中心部からは遠く、近くに観光スポットが無いこの七浦でどれほどの宿泊利用があったかを聞いてみたところ、この５月にオープンして以来、ほぼ毎日宿泊客がいる状態とのこと。ＴＶで取り上げてもらったりして、石川県外からも利用客が増えているようでした。またインターネットを使った予約や楽天トラベルにも登録ができ、さらに広まってきているようです。

七浦再生会議のメンバーで、地元にＵターンで戻って来た若い女性が、１年半前に会った時より、しっかり根を張って活動している様子が伺え、人育てにもなっている様子が感じられました。こういった活動を通して、人が地域と交わり、新しいつながりが生まれる。それが地域やまちが活気づいていくことに繋がっていく。こんな理想を掲げて、七浦再生会議の皆さんは、さらに活動を広げていくようでした。







2026 年 10 月 31 日（土）
朝 6～7 時「建まち」読み合わせ



2025 年 5 月 15 日



2026 年 10 月 30 日



能登半島の地震と水害の現状と私の役割

千代崎一夫（全国災対連世話人）

１０月２９/３０/３１日で能登地震の調査で半島を回ってきました。地震後の能登へは４回目になりました。今回は新建の６支部１１名か参加しました。

私は、早く現場を見ることが大切と思っています。時間が経つと分からなくてなってしまうこともあるからです。当然、データが揃ってそれを確認しながら見る方が、認識が深まることもたくさんあります。

現地の状況を把握して、どんな支援が必要かを発信することが自分の役割だと思っています。建築士ではありませんので、見るのも感覚的なのですが、運動の中での早い発信がつぎの行動につながるからです。まだニュースでも取り上げられているときに新建としての報告が必要です。

犠牲になった方々がどうすれば助かったのか、割合から考えるのではなく、こうすれば助かったという積み重ねを検討して施策にしていくべきです。

どうすればまちや建物で災害が起きたときに防げるか、被害を減らせるかを考えて、ヒントや教訓にすることが、次に災害が起きたときに被害を少なくすることだと思います。

国レベルで考えれば、阪神淡路大震災後、その後も続く災害に対する「防災 NGO」「防災ナショナルセンター」として全国災対連（災害被災者支援と災害対策改善を求める全国連絡会）を結成して、他団体と運動をしています。

支援のために施行されている制度を学ぶ、他で良い制度があれば紹介し交流をする、国や自治体に良い政策を実施させる努力をし、その地域の特色や文化を学ぶことにも力を入れています。

今回の能登調査は地震からは２年１０ヶ月、豪雨災害からは２年１ヶ月たっています。

解体は公費解体が主ですし、年限も決められることからどんどん進んでしまいます。まちや村をどうするかはじっくりと時間を掛けて考えた方が良いと思います。しかし道路や橋まで直してないところもたくさんあります。復興どころか復旧もまだ進んでいないというのが現状です。

被災現場を見て、自分たちの住むまちでの防災減災も考えなければなりません。「東京で同じことが起きたら自分たちの責任だ」と思うようにしています。そのために直後でなくても被災現場には足を運んでいます。

11 月 27 日に「全国災対連 11・27 署名提出集会―国会行動」があります。

新建では 200 筆の署名を提出します。







鋸屋根に魅せられて

和歌山県橋本市高野口町 ①　写真家　吉田敬子

愛知県一宮市で、操業停止後の鋸屋根工場をリノベーションし、アトリエやギャラリーに使用している友人から連絡がありました。和歌山県在住の方からです。「操業停止後の鋸屋根工場を解体するか、活用できるのか、事例もなく悩んでいます。インターネット検索すると、鋸屋根工場を解体せずに活用している、平松毛織株式会社様のことを知り連絡しました。見学させて下さい。」と連絡がありました。企画展「魂の記録・のこぎり屋根」吉田敬子写真展開催中でしたので、お誘いしました。トークショー開催日に資料持参で参加されました。「私は、和歌山県橋本市高野口町で、かつてパイル織物の製造・加工を営んでいた玉井工業有限会社の家族として、現在、工場跡地に残る鋸屋根建屋の保存と活用に向けた活動を始めようとしております。平松毛織様や皆様の事例を参考にしたく、参加させて頂きました。」と話されました。このトークショーに間に合わせたという、冊子を頂きました。冊子を見る限りカタログのようで驚きました。トークショーでは保存と活用について、参加者と意見交換もあり楽しく熱い時間でした。和歌山県にも鋸屋根はありました。私はご縁を頂きました。数日後メールが届きました。「インターネット検索で見つけました。高野口町のパイル織物や工場について、和歌山大学の学生さん達が調査した資料がありました。驚きました。専門的内容で、私には少し難しいのですが読んで下さい。プリントして送ります。」

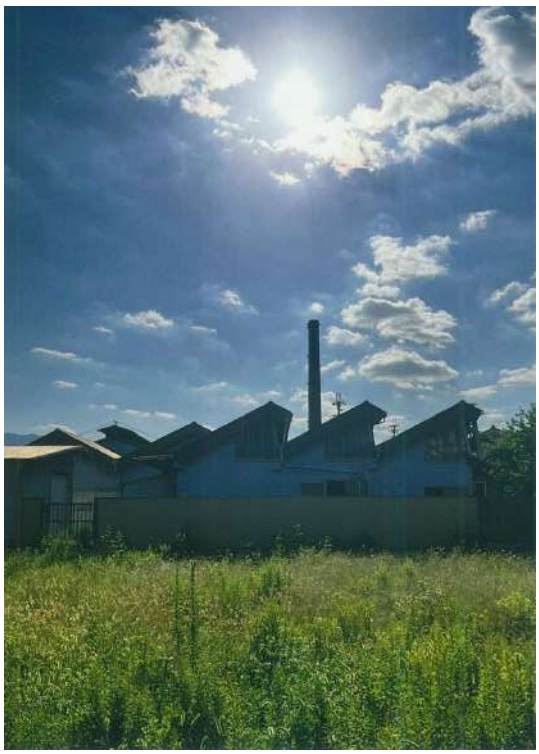
玉井工業有限会社・３連鋸屋根工場



和歌山県橋本市高野口町の歴史を紹介します。高野山の麓、紀の川に育まれた高野口。高野山への参詣口だったことから、高野口の名がつきました。世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の一つで「高野参詣道」と登録されています。高野参詣道は、空海が開創した真言密教の聖地です。「高野山」に徒歩で登拝するための参詣道（古道）でした。江戸時代になると多くの庶民が高野山へ登るようになり、信仰心だけでなく観光など娯楽も増えました。明治 34 年（1901）には紀和鉄道（現 JR 和歌山線）高野口駅（下記写真）が開業し旅館や飲食店、土産物屋などが立ち並ぶ繁華街として栄えました。また江戸時代から木綿織が盛んで「川上木綿」と呼ばれていました。明治時代に入るとシェニール織を元に、一度織り上げた生地を紐状に裁断して再び織り上げる特殊な織物「再織（さいおり）」を創案し、大正初期には技術研究が進み「パイル織物」へと発展してきました。紀の川の豊かな水に支えられ、織り・染め・加工・仕上げの技術の高さは、工程ごとに職人の枝が分業で磨かれ、産地としての品質と信頼を築いてきました。パイル織物とは、生地の片面又は両面にループ状や羽毛状の糸を織り込んだ織物の総称です。主な用途は幅広く、高級ファッション素材（フェイクファー、ベルベット等）寝具・インテリア（毛布、ソファー、カーテン等）鉄道車両のシート（新幹線・自動車シート）電子機器の精密部材、環境技術まで身近なところにあります。パイル織物のサンプルを見せて頂き、幅広い用途に驚きました。（続）

下記写真説明：左（高野口駅と、駅前に建つ葛城館（かつらぎかん）/明治後期の木造三階建旧旅館）
右（玉井工業有限会社）





タイ　タイの物価に苦悶の旅　リゾートが変わった　260626　NNA カンパサール

アジアンニュースNo.46
（ベトナム中心）TN

今回は、タイの旅行事情を探ってみました。物価高の中、訪れるのは、日本人・中国人は鳴りを潜め、ロシア系・インド系・中東系だそうです。

　世界的に物価高が加速している。タイでは都市部はもちろん、南部の人気リゾート地は以前と比べて値上がりはもはや異次元。東京ディズニーランドを割安に感じてしまうほどだ。懐の寂しい日本人や中国人の観光客はすっかり鳴りを潜め、リッチなインド系やロシア人がビーチを楽しんでいる。



サムイ島の近海に広がるアーントーン諸島の絶景
（筆者室橋　裕和提供）

　「高えなあ・・・」僕はグーグルマップを見ながら、この旅で何度目かのため息をついた。

　地図上にはタイ南部のリゾートアイランド、サムイ島のホテルとその料金が表示されているのだが、安い所でも 1000 バーツ（約 4900 円）を上回る。

　これがコロナ禍の前ぐらいまでなら1バーツ3円ほどだから「3000 円か、まあいっか」と気軽に予約していただろう。しかし、今や1バーツは大体5円である。「このボロそうな宿で 5000 円か・・・」と思うと、元バックパッカーの僕としては躊躇（ちゅうちょ）してしまう。





　リゾートホテルとなれば1万バーツ、2万バーツ超えの物件が普通にあるから恐ろしい。決して特別な存在というわけでもなく、グーグルマップにはそのぐらいの値段がいくつも表示されている。世界が違いすぎて、嫉妬の気持ちすら湧いてこない。

　その中にもちらほらと 1000 バーツを割る宿があるのだが、僕は知っている。いちおうタップして詳細を見てみれば、ほらね。やっぱりドミトリーか。大きな相部屋のベッド一つを借りる節約旅の強い味方だが、僕も一応は取材の最中であり、リモートワークをこなしながら旅をしている以上、できれば個室が欲しい。

　最近のドミトリーは清潔でエアコンも効いていて、ベッドごとに電源や照明を完備。カーテンもあるから、プライバシーをいくらか保てるタイプがタイのみならず、どの国でも主流になりつつあるが、その分の値段も上がった。オンシーズンど真ん中の人気観光地であれば、ドミトリーですら 1000 バーツを超えてくる。





　昔はもっとこう、刑務所の雑居房みたいな感じでプライバシーもへったくれもなく、暑くて汚くて誰か一人が風邪をひいたら全員に伝染し、今みたいな鍵付きロッカーなんてないから貴重品は肌身離さず寝ていたけど、50～60 バーツで泊まれる所もあったよなあ・・・あの頃は 200 円以下かあ・・・と 20 年以上前のことを懐古する。そこらの屋

台でメシを食っていれば、ビール1本のぜいたくを入れても 1 日 1000 円もあれば賄えたように思う。しかし、そんな時代はとっくのとうに過ぎ去った。

★コーヒーとティラミス　しめて 1450 円の衝撃



　タイは経済成長が続き、日本はその間ずっと停滞。コロナ禍が明けてタイの観光業に活気が戻ってきてからはバーツが急上昇。一方の日本円は安くなるばかりで、この格差が日本人旅行者を直撃する。加えて、ウクライナ戦争以降の世界的な物価高の傾向はタイも同様で「食材を中心にあらゆるものが値上がりした」とタイ人は言う。

　かつては、屋台のクイッティオ（汁そば）やカオパット（焼き飯）なんかは 20 バーツ、当時のレートで 60 円という価格が長らく続いていたものだが、今はどんなに安い店でも 40 バーツはする。70 バーツ、100 バーツという店も珍しくはない。最近タイで増えているミャンマー人労働者のための食堂はいくらか安い。この豪華セットで確か 120 バーツぐらい（筆者提供）



　これを、3掛けではなく5掛けで計算しなくてはならない円安の悲しさ。日本では庶民の味方「すき家」の牛丼並が 450 円、「小諸そば」のかけそば 410 円だから、もはや日本とあまり変わらない料金である。

　しかも、タイ南部のリゾート地ともなれば、実は屋台や安食堂そのものがグッと減る。たまに見かけても、英語メニューもばっちり用意してある観光客を意識した店ばかりで、味付けはよく言えば外国人に合わせてマイルド、悪く言えばパンチに欠けた物足りなさで、値段は 100～200 バーツといったところ。ショッピングモールに入ってちょっといいレストランで食べようと思ったら、ランチセットでも 200～500 バーツはする。

　最近タイでも増えてきた、おしゃれなカフェでアイスコーヒーとティラミスを頼んでみたら、290 バーツ（約 1450 円）だった。ドトール以上、ルノアール並みの価格である。コーヒーもティラミスもおいしかったが値段は日本並み（筆者提供）



★一日過ごす費用　TDLより割高

　一日で計1万 2900 円なり。リゾートらしいアクティビティーを楽しむこともなく、節約を意識してこの値段。タイの物価が上がったのか為替のせいか、あるいは僕が単に貧しいだけなのか。そのいずれもであろうとは思うが、数日ならともかく数週間の旅行となると、この出費はなかなかに厳しい。

　タイの田舎ではガソリンは路上で買うものだ。漏斗を使ってバイクに入れてくれる（筆者提供）カイラン菜と揚げ豚の炒め物&ご飯で 80 バーツ。サムイ島にて（筆者提供）

　特にタイ南部はフェリーでの移動がメインになるが、イラン戦争以前からガソリンの上昇傾向が続き、それが乗船代にも反映されていて宿代並みの出費となるのがきつい。

　気合いの入った欧米人バックパッカーには、夜行のスローボート（本土－タオ島間、500 バーツ～）に乗り込み、500 バーツ前後のドミトリーに投宿し、メシはドミの仲間同士で自炊・・・なんてタイプもいるが、それでも1日最低 4000～5000 円はかかるのではないだろうか（ちなみに、ダイビングショップに併設されたドミが特に安い。本来はダイビング免許を取得するために何日か滞在する客向けの施設）。

　昔は「秘島」なんて言われたタオ島も観光開発が進み物価高騰が激しい（筆者提供）

　さらに、タイ南部は大自然の宝庫でもあるから各地に国立公園が広がっているが、その入場料金が 300～400 バーツかかる。マリンスポーツの相場は、水上スキー1000 バーツ、パラセーリング 2000 バーツ、ウエークボードが 1500 バーツほど。

ファミリーだったらテーマパークなんかも行きたいだろうが、例えばプーケットのウオーターパークの入場料は大人 1800 バーツ、子供 1200 バーツ（円換算はおよそ5で掛ける）。たくさんの象も出演する壮大なショーが売りの「プーケット・ファンタ・シー」はディナー付きで 2200 バーツ。



ちなみに、東京ディズニーランドのワンデーパスポートは 7900 円からである。タイで南国リゾートをめいっぱい満喫しようと思ったら、もう日本以上の出費が必要になってくる。

マリンスポーツはどれもなかなかの値段（筆者提供）

★旅客は印、露、中東　日本人は消え去った

バーツ高、物価高、円安のトリプルパンチを食らいながらタイ南部を1カ月ほどかけて回ったが、日本人を見かけることはほとんどなかった。家族連れもカップルもバックパッカーも、だーれもいない。サムイ島とプーケットで、タイ在住の駐在員らしき一家とすれ違ったぐらいだろうか。



代わりに増えたのはインド系、中東系の観光客だ。特にクラビーやプーケットあたりでは、大家族でそぞろ歩いている姿をよく見る。この地域の人々は、旅先でも自分たちが普段食べているものを求める傾向があるからだと思うが、インド料理、アラブ料理の店がずいぶんと増えた。

イエメン料理やシリア料理など、日本ではあまり見かけないジャンルのレストランもあって異国飯マニアとしては興奮してしまうが、インドの急成長やオイルマネーのパワーを思い知らされる。イエメン、シリアとも政情不安で経済的にも厳しく両国からの観光客はわずかだろうが、その食文化はよく知られていてリッチな湾岸諸国をはじめ、アラブ系の人々には親しまれている。

それにウクライナ戦争以降は、ロシア人がずいぶんと増えた。厭戦（えんせん）気分がまん延しているとかで、ロシア富裕層の一部は国外に流出。タイでは中部パタヤやプーケットでコンドミニアムを購入し、長期滞在するロシア人もけっこういる。だから、ロシア料理店をやたらに見かけるようになった。

もちろん、リゾートには地元のタイ人もたくさんいる。タイ人全体の所得はまだまだ日本よりも低いし貧富の差は激しいが、それでも中間層は厚くなり経済力を増しており、お金をかけて観光を楽しんでいる。

パンガン島の民宿のおばちゃんは、チェックインの時に僕のパスポートを見て「あら日本人。この前、富士山に行ったよ。次は北海道に雪を見に行こうと思ってるの」と言っていた。タイ人は、日本のインバウンド産業にとっても大事なお客さまなのである。



ちなみに、中国人観光客はタイからかなり減った。景気減退とバーツ高の影響だという。旅行に行くなら外国よりも中国国内を選ぶ人が多くなっているのが現状で「せっかく中国語を勉強したのに」と、プーケットのあるタクシー運転手がボヤいていた。

その中国人よりも、日本人ははるかに少ない。だからなのか、旅行業界に勤める知人がこんなことを言っていた。

「高級ホテルに営業をかけても『うちのブランディングと合わないので』なんて言われて、断られることが増えた。以前はこんなことはなかった。日本人をターゲットにしても利益にならない、と思われている。マーケットの外に置き去りにされてしまったような気がする」

タイに行くたびに、日本人の存在感が薄くなってきていると感じる。もうちょっと円高になるかバーツ安になるか、あるいはわが業界の原稿料が物価に合わせて上がってほしいものだ。

タイの美しい海を満喫するにもお金はかかる（筆者提供）

今、韓国が熱い！
世界遺産「書院（ソウォン）」建築の思想と表現！そして、空間的哲学が光る
安藤忠雄、アルバロ・シザの四次元空間！

歴史的な「書院（ソウォン）」の思想から、現代の巨匠である安藤忠雄氏やアルバロ・シザ氏の空間哲学にいたるまで、韓国には伝統と現代が美しく交錯するダイナミックな空間が広がっています。それぞれの建築が持つ思想と表現のハイライトをまとめて紹介します。

1. 世界遺産「書院（ソウォン）」：自然と一体化する儒教の思想空間

2019年に世界遺産に登録された「韓国の書院（9つの書院）」は、16〜17世紀の朝鮮王朝時代に建てられた私立の儒学教育機関です。

自然への絶対的な敬意（借景の思想）：

自然を征服するのではなく、建物の一部として取り込みます。講義を行う「堂（タン）」から外を眺めると、柱と梁が額縁のようになり、周囲の山水が絵画のように浮かび上がります。

抑制と礼節の表現:

きらびやかな装飾を排除した、素朴で幾何学的な木造建築。これが儒教の精神である「自己抑制」と「学問への集中」を形にしています。

2. 安藤忠雄：光とコンクリートが紡ぐ、韓国の「瞑想の空間」

安藤忠雄氏は韓国でいくつもの大規模なプロジェクトを手掛けていますが、どれも韓国の豊かな自然地形を活かした「祈りや瞑想」を感じさせる空間です。

ミュージアムSAN（江原道・原州）：

「山頂の芸術（Space Art Nature）」を意味する、安藤建築の集大成の一つ。コンクリート、光、水、そして地元産の石（海美石）が見事に調和し、一歩足を踏み入れるだけで都会の喧騒から切り離される感覚を味わえます。

JCCアートセンター（ソウル）：

都会の中心にありながら、特有の鋭角なフォルムと光の取り込み方で、訪れる人に精神的な静けさを与えます。

3. アルバロ・シザ：光と影の彫刻、詩的なモダニズム

ポルトガルの巨匠アルバロ・シザ氏は、韓国の「風景の文脈」を鋭く捉え、流れるような美しい白のボリュームやコンクリートの造形を融合させています。

ミメシス・アート・ミュージアム（京畿道・坡州出版都市）：

「猫が体を丸めている姿」からインスピレーションを得たと言われる、美しい曲線を描くコンクリート建築。直射日光を避け、計算された間接光だけで満たされた内部空間は、まさに「光の彫刻」です。

サユウォン（Sayuwon）の建築群（大邱広域市軍威郡 八公山麓）

特徴：70万㎡に及ぶ広大な山地庭園に、
シザやスン・ヒョサンらが設計した「ソヨホン」
「ミョンジョン」「ヒョナム」「サダム」などの建築が点在しています。
ドラマ『涙の女王』のロケ地としても知られています。

■陶山書院（トサンソウォン）（安東市）- 李滉（退渓）を祀る



■屏山書院（ビョンサンソウォン）（安東市）



■ミュージアムSANの瞑想館（原州オークバレー）



■サユウォン（Sayuwon）の建築群



申込みは、h.maruya@me.comへ

2026年11月29日sunday14〜17h 話し手・**丸谷博男**
主催・新建築家技術者集団東京支部「新建・みんなの知恵袋」
会場・新建事務所/ 東京都新宿区山吹町361番地　誠志堂ビル3階 TEL 03-3260-9810
（外階段から入り、2階に内階段があります。）
共催・エコハウス研究会、2026/10月13~18日韓国の旅グループ
会費・2000円（新建会員1000円、wineを用意します。ツマミ持込み歓迎）

— ザ・ビートルズ来日 60 周年記念 —

ジョン・レノン&ビートルズ Night

「imaginepeace 音楽のつどいプレ企画！」

昨年に引き続き、ジョンレノンの命日に「ジョン・レノン＆ビートルズ・ナイト」を開催！
軽い食事と飲み物をとりながら、みんなで楽しく集いましょう。



12 月 8 日（火）18：00－20：30

板橋区立グリーンホール 1 階

参加費：2,000 円 （軽食と飲み物少々含む）

参加申込みメール　sumaitushin@gmail.com

詳細は随時、ホームページにアップします。https://sumaimachi.net/relay/
https://sumaimachi.net/relay/261208johnlennon-night/

Imagine peace 音楽のつどい 2027



2027 年 1 月 30 日（土） 開場 13 時
13 時 30 分～19 時　終了後に同会場で打ち上げ
板橋区立グリーンホール 1 階ホール
参加費：1000 円

『戦争はやめよう! 憲法を守ろう!』
“平和”を心で願っているだけでなく、何かの形で意思を表明しようとよびかけ「音をつなぎ、未来へつなぐ」という共通の思いで 2018 年から取り組みをしています。

「imagine peace」
一人ひとりが平和を思い描き、感じ、分かち合うひとときを、ぜひご一緒に。
2026 年 1 月 17 日には 18 組 37 名が出演！ギター弾き語り、合唱、詩の朗読、フルート、オカリナ、サックス、ハモニカ、クラリネット、ピアノ演奏など、それぞれに思いを伝えました。

「イマジンピース音楽のつどい」事務局　〒174-0072 板橋区南常盤台 1-38-11-1F
千代崎一夫／山下千佳　メールアドレス　sumaitushin@gmail.com
TEL 03-5986-1630　FAX 03-5986-1629

住む人・使う人の立場で、
住まいづくり、まちづくりを
すすめています。



共同建替え「アリシア鳩ヶ谷」

〒124-0001
東京都葛飾区小菅4-22-15
TEL：03-3601-6841
FAX：03-3601-6944
E-mail：zo-3@jade.dti.ne.jp
http://www.zo-3.info

株式会社 象地域設計

住み続けられる



まちづくり

株式会社
まちづくり研究所

〒150-0013
東京都渋谷区恵比寿 1-13-6 第二伊藤ビル 503
TEL：03-5423-3470　FAX：03-5423-3479

新建築家技術者集団　憲章

　建築とまちづくりにたずさわる私たちは、国土を荒廃から守り、かつ環境破壊を許さず、人びとのねがう豊かな生活環境と高い文化を創造する目的をもつ。
　私たちはこのことを認識し、行動するための目標をかかげ、ここに憲章を定める。

1　建築とまちづくりを、社会とのつながりの中でとらえよう。
2　地域に根ざした建築とまちづくりを、住む人使う人と協同してすすめよう。
3　建築とまちづくりの優れた伝統を継承し、理論や技術の発展と創造につとめよう。
4　人びとに支持される建築とまちづくりの活動をすすめ、専門性を確立しよう。
5　建築とまちづくりに関連する国内外の広い分野の人びととの交流をはかり、連帯を強めよう。
6　建築とまちづくり、生活と文化、自由のために平和を守ろう。



新協建設工業株式会社

平和であればこそ建築はよろこび

本社　台東区台東２－２５－１０　ＴＥＬ０３－３８３６－２０１１　ＦＡＸ０３－３８３７－８４５０
東東京支店　江戸川区篠崎町３－１－３　ＴＥＬ０３－３６７８－７４７１　ＦＡＸ０３－３６７８－７４７２
台東支店　（台東）台東区台東２－２５－１０　ＴＥＬ０３－３８３６－２０１７　ＦＡＸ０３－３８３５－７３８０
西東京支店（多摩）日野市神明４－２２－１３　ＴＥＬ０４２－５８４－７５０８　ＦＡＸ０４２－５８４－７５８１
大阪支店　堺市寺地町東４－２－１１　ＴＥＬ０７２－２２９—２８７３　ＦＡＸ０７２－２２９－２８７４
石川支店　金沢市法光寺町２０７－４　ＴＥＬ０７６－２５７－２５３５　ＦＡＸ０７６－２５７－２５７０
広島支店　広島市安佐南区相田６－１－７　ＴＥＬ０８２－８７２－１７２７　ＦＡＸ０８２－８７２－１７２８